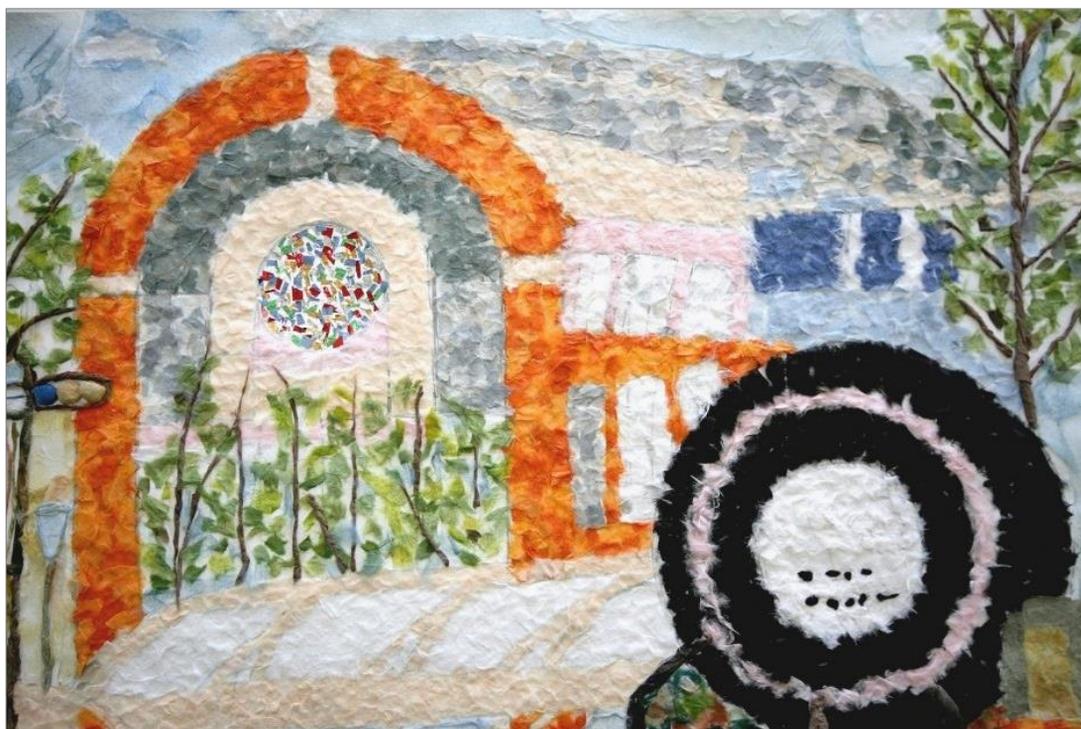


平成23年度
絵画部門

金賞



「生まれ変わったJR久留米駅」

川口 果歩

南小学校

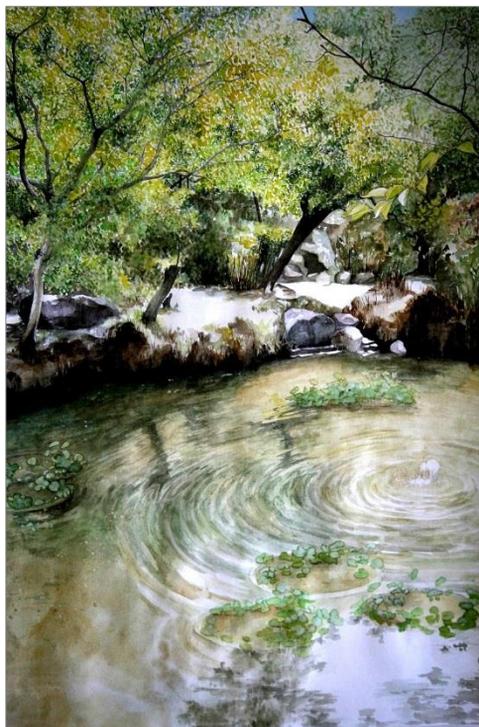
私は、九州新幹線が開通して、建てかわってきれいになったJR久留米駅が大好きです。エスカレーターを上がっていくと、頭の上には久留米のいろいろな名所がステンドグラスで表してあります。すごくきれいで、私は気に入っています。また、駅の横には、ブリヂストンの世界最大級のタイヤがかざってあります。建設、鉱山用のタイヤだそうです。これらのタイヤは、世界各地へ輸出されていて、さすが「ゴムの町久留米」だなあと思いました。兄ちゃんの高校受験が終わって、私が中学入学前の春休みに、新幹線でかごしまの砂ふる温泉に家族で行こうと話しています。「ねころんで砂をかぶったら、どんな感じなのかなぁ？」JR久留米駅から、新幹線に乗るのが待ちどおしくて、今から楽しみです。

銀賞

「葉光」

壇 由香里

久留米市民なら誰もが知っている文化センターですが、行く度に新たな風景を発見できます。他市から来た友人が文化センターを見て、久留米にはこんなにキレイな所があるのかと感動していたので、改めて私も石橋文化センターの価値に気付かされました。四季折々の風景と、久留米の歴史と文化を象徴する場所だと思い、描かせてもらいました。



「川辺の花火」

下川 凜

荒木小学校

建物の間から見える花火もきれいですけど、わたしは、川の水にぼんやりうつる花火をかきました。花火はとてもきれいだっただけで、それを筆を使わずに、めんぼうやつまようじやスポンジや指を使って表現しました。わたしは、毎年来ている場所から見る花火が一番好きです。

「久留米ワッショイ」

綾部 玖利美

屏水中学校

吹奏楽部の友達が水の祭典に出演するというので、美術部みんなで応援に行きました。写真をたくさんとったのですが、その時の子供会のおみこしに、私は心がひかれました。子供も大人もとても楽しそうに参加して、一生懸命な様子が、色とりどりの法被と共にとっても強く印象に残りました。私は、この様子をどうしても絵にしたかったのです。部活動の心に残る一作品になりました。



銅賞



「川にうつる花火」

北島 愛生

荒木小学校

私がかいた絵は、空にいっぱいあがっている花火が、川にうつっているよすの絵をかきました。花火が川にきれいにうつるような、ゴミなどでよごれていないすきとおった水で、魚がたくさんすんでいる川になってほしいです。

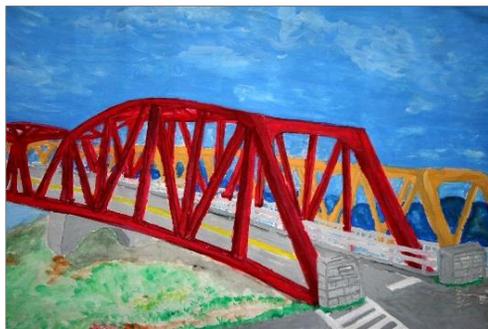


「ずっといたいこの場所」

橋田 知実

三潜中学校

私がこの景観を作品にした理由は、この景観は、見ただけで心がいやされるし、気持ちがよくなったからです。それに、自然の草があって、木があって、久留米の筑後川があるところに電車が通っているところもいいなと思ったので、この景観にしました。



「六五郎橋」

末次 隆一

下田小学校

福岡県と佐賀県の県境を流れる筑後川にかかる、長さ450m、中6mの鋼トラス橋が六五郎橋です。久留米市内でもあまり見かけない橋の形をしています。橋の長さも450mと長く、赤い色をしたきれいな鉄橋です。地元ではだれも知っている有名な橋です。天気の良い日はとてもきれいです。車の通行もとても多いです。ほくは筑後川にかかる昔ながらの六五郎橋がとても好きです。だから家の近くにある六五郎橋を絵にしました。



「除夜の鐘」

飯田 強子

寛政三年の再建で、福岡県重要文化財である。久留米藩主、有馬侯の寄進である。毎年、大晦日には梵鐘を撞くために各地から大勢の人がお参りし、屋台の店、福引き等も沢山あって、賑わいを見せます。



「新幹線のみえる風景」

秋山 彪

篠山小学校

九州新幹線が開通し、家の近くからみえる風景がとてもすきなのでかきました。



「久留米駅に打たれる花火」

半田 瑛介

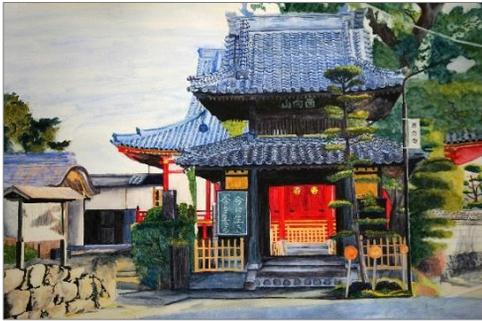
篠山小学校

いままで見たなかで、一番きれいだったから。いいところに花火が上がって、いい絵ができると思ったから。今年の夏休みはどこにもいってなくて、花火しか見に行けなかったから。



「花火大会」
一木 大熙
荒木中学校

久留米市は、年に一度、水の祭典という花火大会があります。私は今年の花火大会で、初めて会場まで足を運んで見に行きました。会場で見るととても迫力があって、とてもきれいで、鳥肌が立つほど感動しました。また、会場でしか味わえない、川に映る花火を見るのも、何か風情を感じました。絵で、あの迫力のある花火や、川に映るもう一つの花火など、表現するのは大変でしたが、自分なりにそのときの感動を思い出しながら描きました。絵ですが、あの時の迫力、感動などが伝わればいいと思います。



「朝日に浮かぶ専念寺」
近藤 美沙季
屏水中学校

8月の初めごろ、部活動で草野へ撮影をしに行きました。早く行ったので、朝焼けを見ました。朝焼けは、専念寺やその町を明るく照らしてきれいだったので、この景観を描きました。今、専念寺の中には入ることができませんが、きれいな内装になっています。



「夏の道」
田中 唯
屏水中学校

山辺の道文化館へと続く道です。日が木の間から差していて、とてもキレイだったので描きました。草野はいい町です。



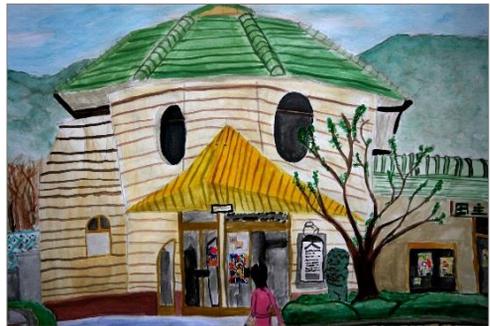
「水のさいてん 花火」
藤崎 未唯
高良内小学校

私は、お母さん、お父さんと3人で花火を見に行きました。ひやくねん公園からあるすすこのところに、とってもいいけしきがみえる所があって、とってもきれいでした。それを見て私は「きれいだな。」と思いました。そして私は、家にかえって、すぐにはりえて花火を作りました。いろんな花火がありました。そのなかで1番きれいだった花火を作りました。ぜひみてください。



「新JR久留米駅」
柴尾 智子
三潯中学校

九州新幹線開業のために新しく生まれ変わったJR久留米駅を題材にし、絵を描きました。新しくなったJR久留米駅を見に行ったとき、外観や、中にたくさんの工夫がされているのを思い出して、この絵を描こうと思いました。この建物はたくさん複雑な部分があり、描くのが大変でした。その中でも特に大変だったのは、真ん中にあるメインとなる建物です。細かくしりがされていて、塗るのがとても大変でしたが、やりがいのある建物でした。



「かっぱ駅」
小野 瑞佳
善導寺小学校

田主丸はかっぱが有名で、かっぱの形をしている駅を見た時に、とても印象に残ったので、描いてみたいと思いました。



「大本山、草野の神社、
梅林寺、水天宮」
古賀 果七子
三井中央高等学校

「水の祭典」

川原 和夫



毎年行われる久留米市民総参加の大イベント「水の祭典」(8月3日、4日、5日)の最終日、筑後川の花火大会フィナーレで盛り上がりがあります。市民、近隣の市町村の皆さんが、光の競演にうっとりとして満足されています。ほとんどの人が、カメラや携帯に収めています。私もデジタルカメラのシャッターを何十回も押しました。その写真を「和紙のちぎり絵」として表現して、作品として出品します。4枚の写真を合成しています。

「私の印象に残っている風景」

山本 ひかる 屏水中学校



今年、屏水中学校美術部で「水の祭典」に行きました。水の祭典は毎年おこなわれているお祭りで、いろいろな人々が来ていて、とっても楽しいお祭りです。私はダンスをしていて、たまたまこのダンスチームの絵を見て、とっても感動しました。私は、その楽しそうなダンスチームの絵を描いて、私が感じた気持ちを、みなさんにわかっていただけたらな、と思い描きました。チームの人たちの衣裳を描くのが、とっても大変でした。でも、私が毎年楽しみにしているお祭りを描けてとってもうれしいし、これからも、このお祭りを見ている人たちのように、絵で感動させたいです。

「草野路」

岡部 久裕



草野の味わいある街並みにのびる古い一本路。その向こうに横たわる耳納連山との対比がおもしろく、絵にしてみました。

「雪天神代橋展望」

大場 瀧蔵



朝起きたら、予想もしていなかった大雪だった。近來珍しい白銀の景観に、早速カメラに納めて、趣味の絵画のネタにとシャッターをきった。雪景色の作品は手の込む作品だが、至難の作品挑戦は技芸向上の基になることと完成した作品は美しい。稀に会った雪天に感謝し、神代橋の展望作品に希望を抱いて車を走らせた。思った通り、作品は美しかった。

「神社の裏の岡」

濱田 菜摘 屏水中学校



もどからあった写真を先生にすすめられて、私もこの写真にひかれたのがきっかけで描きました。ぱっと見た時に、力強い幹と、光の差す葉同士のすき間、奥に見える屋根の強い反射の光のバランスがすごいなと思いました。私がそれを表現できているのかはわかりませんが、頑張って仕上げました。

「いつもの駅」

近藤 紗妃 屏水中学校



この駅は小さい頃から見慣れた駅です。駅を見るたびに、そこから旅が始まるような気がして、とてもドラマチックな気持ちになります。構内にシルエットで映っていた人の旅先を思って、この絵を描きました。

「スポーツの秋」

真武 容里



筑後川の河川敷でスポーツをしている風景が久留米らしいと思い、絵にしました。

平成23年度
写真部門

金賞



「榎まつり」

益永 千秋

榎並木を永勝寺より撮影したものです。高台から見わたすとすばらしい榎並木が見えます。

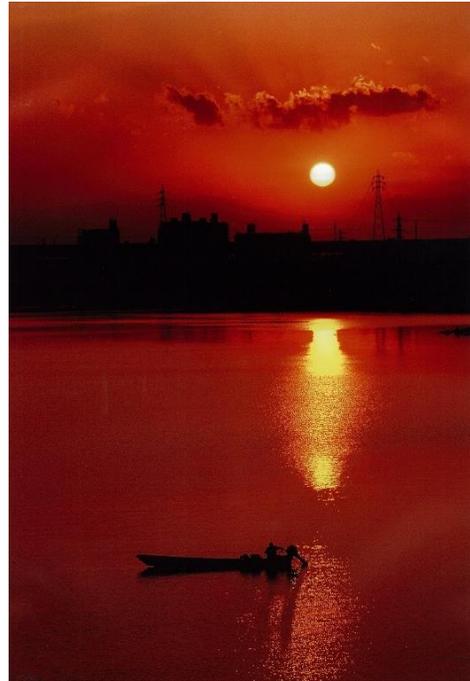
銀賞

「大河筑後川」

田頭 敏也

この作品を選ぶきっかけとなったのは筑後川の四季や伝統漁など流域の暮らしを追った記録映画「筑後川 いま、河童を生きる」の完成記念上映会(10年程前田主丸町)を鑑賞し、流域で展開する人間ドラマに感銘を受けたからです。映画の一部を紹介しますと流域四県の人々の川への思い、先祖が開拓した田畑を守り続ける農家や伝統漁で川と共存する人々などが描かれていました。

そこで私は趣味のカメラを出して、10年程自然の美しさを求めて風景写真に挑戦中です。特に筑後川の撮影範囲は日田～大川間が主な所です。最後に自然環境を生かした取り組みが重要と考えます。例えば、都市化対策、生態への保護対策など効率面に配慮した計画が必要と考えます。行政、地域が一体となり取り組む事が責務だと思いますので、久留米市の未来のために職員の皆さん頑張ってください。



「奥の院」

高橋 宏誌

牟田山中学校

神社の鳥居に木漏れ日が差し込んでいて暗い山の中にある鳥居のようないい雰囲気だったから。

「耳納連山・雪景色」

堤 和幸

久留米市の南側に雄大にそびえる耳納連山。市外から訪れる人は皆、「すごく良い景色ね」と言います。普段見なれているせいか、別段気にもとめていませんでしたが、注意して見るようになると夏の深緑、冬の紺碧と四季折々に様々な顔があることに気付きました。写真は2010年の大晦日。一年の終わりに凍とした表情を見せた山と、麓に広がる真っ白な水田です。



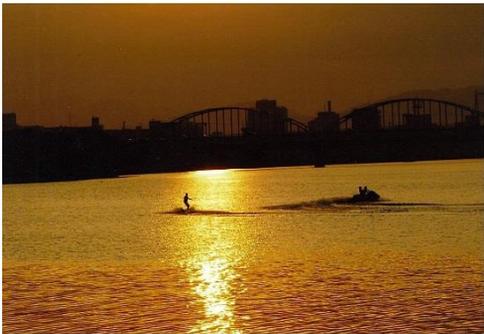
銅賞



「大河と共に」

飯田 恭平

休日の、川のある風景です。久留米市は、美しい大河に抱かれた実りと彩を持つ街。また、その久留米市の変化を象徴するような、超高層マンション等を望むことができます。街の雑踏に接しながらこの緑豊かな眺めは、心の安らぎを感じ、さらに落ち着きを増すことができます。全国水天宮の絵本社や歴史に守られて、穏やかな川の流れをいつまでも願います。



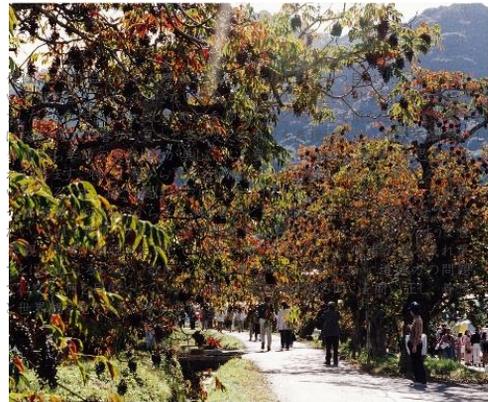
「筑後川」

今村 勇介



「筑後川」

宮本 俊二



「我が産土……南風のまほら、
そして筑紫次郎の流れ」
仲 真一

柳坂の榎並木……榎多きに……青木繁性(仲 真一)昭6。(1931年)三浦郡安武村に生きる。以来学校も職場は鳥栖市だったが幸いにも当地で過ごして来た。北原白秋の歸去来「山門は我が産土、雲騰る南風のまほら」を「筑後は……」と読みかえて豊かな風土の中で生活し楽しんで来た……。その折々の作品であるご参考までに……。



「菜の花と耳納連山」

東原 日出人



「新緑の頃」

藤田 真知子

桜の頃もいいが、新緑の頃もうつくしい。

美しい故郷の自然を大切にしたいという思いで、山紫水明の筑後川と耳納連山をテーマに写真撮影しています。

H23
写真



「柳坂のハゼ並木」

村田 國廣

ここ数年、紅葉はいまひとつで、今年も紅葉することなく立ち枯れて終わるような気がします。ただ、昨年だけは程良く紅葉したのではないかと思います。数十年前、現在の久留米第一自動車学校が、筑水中学校であった時代に通学しましたが、その時は何も感じず、ただハゼの木があったなーと記憶している程度です。ところが今や紅葉時期の観光地として有名になっていますが、私自身のなつかしきから今回出展させていただきました。



「レタスライン」

新免 聖二

レタスのラインがとても美しかったので。



「古民家」

平川 信太

最近はずっかり見ることのできなくなった茅葺の屋根農家、屋根にトタンをカブせて見ることができなくなった。またサッシの窓が取り付けられ昔の面影はなくなった。この民家風の農家は人は住んでいませんが家の中を見学することができます。



「耳納連山」

大橋 蘭子 明善高等学校



「夕暮れの久留米駅」

大橋 千代美

新しい魅力をまとい活動する駅の表情です。久留米市の東の玄関口であるJR久留米駅は、九州新幹線開通を期に、市の発展のシンボルとして生まれ変わりました。駅の落ち着いたデザインは、文化芸術の町にふさわしく、周りにある先達の技術や意思に守られながら、安心とやさしさを増しているように思えます。夕焼けに浮かぶ新駅の表情を発見しました。



「シリーズ『In the City』より」

夏の篠山神社

鶴崎 政志

篠山城趾は桜も綺麗ですが、真夏の目眩を覚える様な強烈な陽射しの中、高く抜けた青空を背景に、静謐とも言える佇まいを見せる篠山神社は、久留米の歴史を伝える大切な建造物の一つだと思います。神社の持つ静かさと力強さが写し止められたらと、シャッターを切りました。



「春の中央公園」

山田 康平

久留米市には桜の名所がたくさんありますが、中央公園もその一つです。桜の咲く頃は市民や周辺地域の方の憩いの場として賑わっています。まさに中央公園は都会のオアシスといった所です。この写真は枝垂桜と中華風の石橋を取り入れることで、春の暖かさゆったりとした時間の流れを表現しています。



「秋興」

江頭 高夫

久留米市の北東部から西部にかけて筑後川が貫流し、東部には耳納連山が連なっています。東部から北西部へ緩やかに傾斜した平坦地が広がっています。山本町から田主丸町にかけての麓に広がる紅葉は、耳納連山の緑を背景として非常に美しく、多くの観光客が訪れます。秋は待ちわびた実りの季節、その喜びが伝わって来るようにおもいます。



「心のふるさと筑後川」

真武 和彦

久留米市民にとり、筑後川は「心のふるさと」と言うべき存在であると思う。その筑後川が茜色に染まる頃、人々は帰路に就く。写真に収まっている橋は、帰路に就く久留米市民の家族、親戚、友人、仲間、そして地域コミュニティ等を繋ぐ象徴として捉えた。坂道を駆け上がるように我武者羅に何かに取組む私達が、ふと我に返った時、筑後川は全てを受入れる存在として、いつもと変わらず悠久の流れをたたえてその私達を見守っていてくれたことに気付く。そのようなことをイメージしながら撮った写真です。



「鬼夜の若衆」

古賀 敏彦

大善寺の鬼夜は、歴史も古く勇壮な祭りです。毎年多くの方が見物に見える日本三大火祭りの一つで、毎年撮影に出かけ、いつも新鮮な気持ちで撮影しています。



「筑後川」

江崎 三男



「中国風の庭園」

廣田 運吉

久留米市と中国の合肥と姉妹都市締結されたことを記念して



「古式豊かに」

宮原 典子

高良くんに奉納される百々手式をスナップしました。



「百々手式」

堀 美子

毎年恒例のイベント「百々手式」寸景。古式にのっとり弓道の矢を射るところ等、気のひきまいる思いがします。

久留米市 都市建設部 都市計画課
平成29年2月発行

久留米市城南町15番地3
TEL: 0942-30-9083